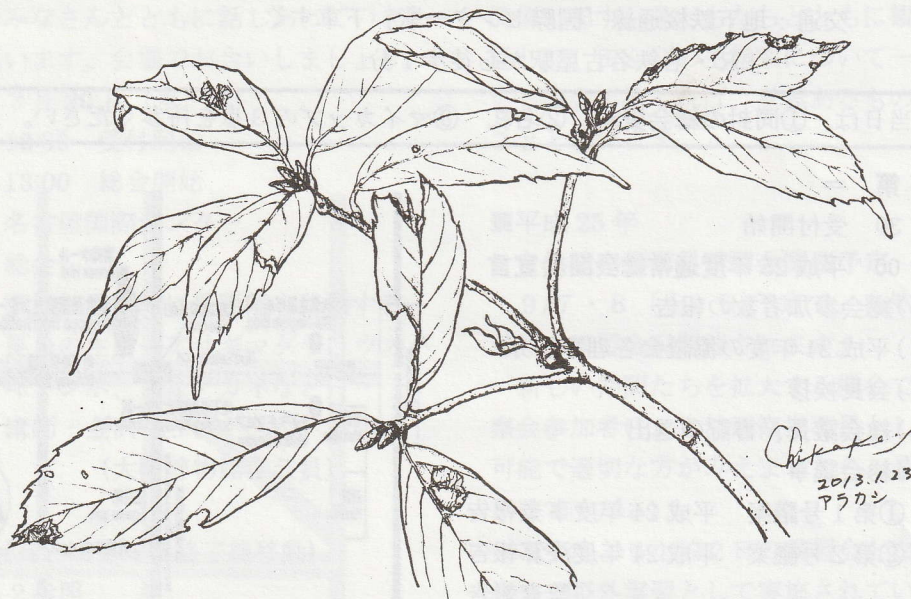


協議会ニュース 138号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2013. 3



アラカシ (ブナ科) 杉澤 周子 (奥三河支部)

平成 25 年度通常総会・講演会案内	P2
知多支部のあゆみと 30 周年記念事業	知多支部 降旗 光宏.....P3
協議会の日「交流観察会」	知多支部 大野 耕也 平松 俊彦.....P4・5
協議会の日「交流工作研修」	知多支部 竹内 秀代.....P6
尾張支部総会	尾張支部 雷竹 善行/JAF・親子ふれあい自然体験.....P7
観察会のヒント	名古屋支部 山田 千宏.....P8
私の活動紹介	尾張支部 出口 慎治.....P9
理事会報告	P10
事務局より	P11
行事案内・編集部	P12

= 平成 25 年度通常総会・講演会 =

愛知県自然観察指導員連絡協議会の通常総会を次の通り開催します。総会是一年を振り返り、新たな年度の事業などを決定する日。日頃出会う機会の少ない遠方の会員との出会いの場でもある総会に、是非ご参加ください。

日 時 平成 25 年 3 月 20 日 (水・春分の日) 午後 1 時～

場 所 名古屋国際センタービル 3 F 第 2 研修室

名古屋市中村区那古野町 1-47-11 Tel (052) 581・5679

交通：地下鉄桜通線「国際センター駅」下車すぐ

J R・名鉄名古屋駅から徒歩 7 分

総会当日は、①同封の総会資料 ②名札 ③マイカップの 3 点を持参ください。

= 次 第 =

12:30 受付開始

13:00 平成 25 年度通常総会開会宣言

- 1) 総会参加者数の報告
- 2) 平成 24 年度の協議会各理事紹介
- 3) 会長挨拶
- 4) 総会議長、書記の選出
- 5) 総会議事
 - ①第 1 号議案 平成 24 年度事業報告
 - ②第 2 号議案 平成 24 年度決算報告
監査報告
 - ③第 3 号議案 平成 25 年度事業計画(案)
 - ④第 4 号議案 平成 25 年度予算(案)
 - ⑤質疑応答 他

14:30 総会終了宣言

～～ 休憩 ～～

14:50 講演会

講 師 金沢 至氏 大阪市立自然史博物館 昆虫担当主任学芸員

演 題 季節的に長距離を移動する昆虫の生活

ーアサギマダラ、ウスバキトンボ、アキアカネなどー

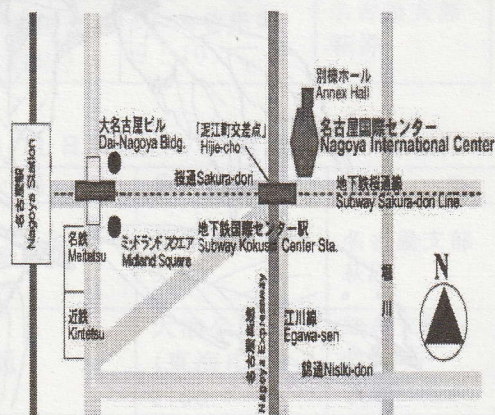
16:20 茶話会 (含 講演の質疑応答 他)

16:50 閉会・後片付け

17:00 会場退去

※ 当日の連絡先 090-3935-8192 (事務局：浅井携帯)

※ 総会終了後、希望者にて懇親会



知多支部のあゆみと30周年記念事業

知多支部 降幡 光宏

■知多支部発足

愛知県自然観察指導員連絡協議会が 31 年前に発足し、その設立の準備をされた事務局担当の佐藤国彦会員の援助で知多支部設立準備会の案内を出しました。協議会副会長竹内哲也会員を発起人とし、知多地方の自然観察指導員に案内を出したところ、8 名の出席がありました。設立総会は佐藤会員を含め 9 名で 1982 年 5 月 16 日（日）「半田市青年の家」で開きました。討論の中で、自然観察会を実施できる力量を養うために野外研修会を行う事を決めました。

■10 周年、20 周年

1992 年 4 月に東海市勤労センターにおいて、会員のみで知多支部 10 周年記念を、宿泊で開催しました。この時「知多の自然観察 10 年」の記念誌を作成しました。内容は 10 年間の会員推移、観察会や研修会の内容別の実施回数、観察会準備資料、参加者用ガイド、アンケート結果などです。

2002 年 6 月には県協議会と共催で 20 周年記念を一泊二日で開催しました。1 日目の午前は半田市矢勝川で、午後は半田市の酢の香りのする古い町並みと身近な自然とが共存している壱町田湿地で、交流親睦観察会を行いました。

17:00 から各支部の現状報告と情報交換会を行い、立食パーティーの後たくさんの会員に宿泊していただきました。翌日、午前には新舞子海岸で交流観察会を行い、午後は知多市文化センターで 20 周年式典と講演会を行いました。展示室では平行して全日資料展示と自然物工作を行いました。



▲ 30 周年を迎えた知多支部
降幡支部長

■30 周年記念事業

30 周年記念事業については 10 周年、20 周年より早くから検討を始めました。当初、形式的な記念式典より、観察会資料としてまとめた冊子ができればと検討しましたが、うまくまとまりませんでした。最終的に指導員の日に合わせて資料展示、記念式典、講演会としました。成果といえば他支部のたくさんの会員、講師の先生を囲んで交流ができ、飲み明かす事が今回もできたことでしょうか。

考えてみれば、10 周年も 20 周年も中心となって動いた人間が同じでした。老化とマンネリ化があったような気がします。振り返ってみるとたくさんの自然大好き人間がそのまま年を重ね、出発当時のメンバーに次々、同世代の自然大好き人間者が加わり人数が増えたのです。

希望としては、節目の時にうまく世代交代ができると思います。時代とか体質などいろいろな要因がありますが、自然大好き人間が減っているのではないかと危惧しています。

個人的な気持ちとしては、30 周年記念行事が終わりホッとしています。

協議会の日 交流観察会

知多支部 大野 耕也 / 平松 俊彦

日時： 11 月 23 日

天候： 曇り

場所： 知多市地域文化センター周辺と
馬池、稲荷神社

参加者： 13 名（うち子ども 8 人）

指導員： 大野 神野 蔦谷 中井康
山田絹 中井三 小島 平松俊
平松裕 浅井一 水野利 岩崎

朝からの雨は幸運にも観察会開始の頃には止んでいました。当方は期待を大きく持ちましたが、雨のせいか参加者は少なめでした。

地域文化センターの広場に集合し、他支部の観察会員も手すきの当会会員も含めて 2 班に分かれて観察を始めました。2 班は馬池の野鳥観察に向かい、1 班は逆コースを選択して稲荷神社の朽ち木の虫観察に向かいました。

1 班は民家の生け垣の朱に色づいたカラスウリの実を観察し、神社では 3 人の会員の指導のもとで、ドライバーで朽ち木の中の虫を探しました。

朽ち木はシイタケ栽培の廃材で、他から持ち込みました。子どもでも簡単に割れたうえにコクワガタの成虫が続々現れ子どもたちを夢中にさせました。

他からの持ち込みには異論はあると思いますがイベントとしては成功でした。境内の朽ち木も観察しましたが成果はよくなかったそうです。

観察予定時間の半分になったところで、朽ち木の虫観察を終了して背戸ノ池に向かいました。下見の時に地主の方に了承を得



▲イスノキ（ヒョンノキ）の虫こぶで笛を作りました。子どもは鳴り物が大好き！



▲カモとカワウが飛び立ちました！

ていましたので生け垣のイスノキの虫こぶを皆で取って鳴らしてみました。背戸ノ池にはハシビロガモがいました。

コガタスズメバチの巣や水路や田んぼを観察しながら、帰路の馬池に向かいました。

馬池では野鳥担当会員から説明を受けながら望遠鏡や双眼鏡で野鳥を観察しました。ダイサギ、ヒドリガモ、ホシハジカルガモなどが観察できました。11 時に現地で解散し、地域文化センターに戻りました。

（記・大野 耕也）

朽ち木の虫観察

予報は雨、しかし 8:30 頃雨は上がりました。8:40 受付を済ませてから浅井 一光会員と朽ち木観察の準備のため稲荷神社へ行きました。

しばらくしてやってきた水野 礼子会員と 3 人で神社境内にブルーシートを敷いてドライバー、軍手、観察カップを並べ、降幡 光宏支部長が持ち込んだ使用済みのホダ木をシートの隅に置いて準備完了です。

大野 耕也会員、田中会員らが率いる先発グループがやってきました。すぐ朽ち木の分解に取り掛かりました。コクワガタの成虫、幼虫が次々に見つかり、子どもたちは大喜びです。

キマワリ幼虫、ムカデ、カタツムリなど他にもいろいろな生き物が見つかりました。先発隊が去った後小島会員、榊原 靖会員らが後続隊を連れて現れました。

朽ち木の分解ではコクワガタだけでなく大きなカミキリムシの幼虫が何匹も出てきて盛り上がりしました。

分解した朽ち木の後片付けをして 11 時過ぎに朽ち木観察を終了しました。(朽ち木は阿久比町板山で関会員がシイタケ栽培をした物をいただきました)

(記・平松 俊彦)



▲ 古いシイタケホダギを分解しました。

<観察した生き物>

◎植物

ミズワラビ イチョウウキゴケ
カラスウリの実 ヒイラギの花 カリンの実
アロエの花茎 イスノキの虫こぶ ジュズダマの実

◎朽ち木の中の昆虫や節足動物など

・持ち込んだ朽ち木

昆虫：コクワガタ成虫と幼虫、カミキリムシ類幼虫、コメツキムシ類幼虫、ヨツコブゴミムシダマシ成虫、ユミアシゴミムシダマシ幼虫、キマワリ幼虫、オオツヤホソゴミムシダマシ(?)成虫、スナゴミムシダマシ類成虫、ツマキヘリカメムシ成虫、ヒゲジロハサミムシ成虫と幼虫

昆虫以外：イシムカデ、マクラギヤスデ、ワラジムシ、クモ類、カタツムリ類

・神社の朽ち木

昆虫：コクワガタ幼虫、ヨツコブゴミムシダマシ成虫、キマワリ幼虫、ヒゲジロハサミムシ成虫と幼虫

昆虫以外：イシムカデ、ダンゴムシ、ワラジムシ、クモ類

◎鳥

ハシビロガモ ダイサギ ホシハ ジロヒドリガモ カルガモ コガモ アオサギ
コサギ カワウ ハクセキレイ

◎その他

タニシ スクミリンゴガイ スズメバチの巣

協議会の日 交流工作研修

自然のお宝で工作しよう

日時： 11 月 23 日（金）

天候： 雨

場所： 知多市地域文化センターホール

参加者： 59 名（うち子ども 37 名）

朝まで雨が降っていた関係でしょうか、観察会の参加者は少なめでしたが、その後の自然のお宝工作にはたくさん参加していただきました。知多支部で日ごろ実施している木の実を使った人形、写真立て、竹の笛、モビールなどのコーナーを設けたところ順番待ちをするくらいの参加者がありました。

今回は自然物の工作が得意な西三河支部の河江 喜久代会員に来ていただきました。河江会員は、アイデアが詰まった多数の作品を持参されました。いろいろな作品の作成方法を知多支部の指導員も一般参加者も学ぶことができました。技術の伝達に非常に役立つ研修会となりました。



▲ モビールがもうすぐ完成です。

知多支部 竹内 秀代



▲ インディアンのお姫かな？

ワジュロの葉で作成したインディアンの羽飾り



▲ インディアンの奥さんかな？

ワジュロの葉で作成したインディアンの帽子

尾張支部総会

尾張支部 齋竹 善行

日時：H25 年 1 月 14 日 13:30～17:00 場所：東桜会館（名古屋市東区） 参加者：18 名
山口昌宏会員を議長に選出し、用意された議案の審議を行いました。

1 H24 年度事業報告、決算及び監査報告

議案書のほか、出席した担当者から直接感想などを加えた報告が行われ、議案が承認されました。

2 新年度の役員

会長：齋竹 善行 副会長：平井直人 事務局：日比理智 事務局補佐：吉田雅紀
会計：木村眞一郎 監事：高谷昌志 通信編集：内海勇夫 通信発送：小嶋 護
HP：山田 博一

3 H25 年度事業計画及び予算

前年度と同様、定例観察会を 9 か所で毎月、稲作り体験&観察会を作業に合わせて実施します。支部の 1 泊研修は定例観察会のない 6 月 29 日と 30 日に、「尾張自然観察会のつどい」は新指導員歓迎会を兼ねて 11 月 4 日に開催することとし、具体化や担当は運営委員会で相談します。今年度から新たに犬山の善師野で始めるモニタリングサイト 1000 里地調査については会員が協力して取組むことを確認しました。

協議会関連では「あいちの自然観察会」は子供と田畑がテーマになっていることから定光寺を候補とし、研修会は 8 月 31 日に伊吹山で開催することとしました。最終年度となるタケの調査も尾張地域分に取り組むことを確認しました。

あいち自然ネットの関連では、「いきものたんけん隊」と「第 6 回 人と自然の共生国際フォーラム」に参加していくことを確認しました。

4 総会後の交流会・懇親会

私が 30 周年にあわせて作成した自然観察会記録データベースを、出口会員がタヌキマメ開花調査や森林公園のヒサカキの雄株・雌株調査などを、高谷会員が自然観察に便利な書籍や自作のラミネート加工資料などを紹介しました。

17:00 からは場所を移して美味しいお酒をたしなみながら懇親を深めました。

.....

JAF 親子ふれあい自然体験

名古屋支部 浅井 聡司

テーマ「水辺の生き物の観察」

日時：平成 24 年 8 月 25 日(土)10:00～12:00 場所：国営木曽三川公園 138 ツインタワーパーク

参加者：18 名(うち子ども 10 名) 講師：浅井・大谷・長谷川(努)・三輪(千)他 JAF 担当者 3 名

最高気温 34℃の真夏日だった。木曽川で川の生き物を採集観察し、また大池に移動して池の生き物を採集観察した。参加した子どもたちは、水遊びを楽しみ、生きものを捕まえることに夢中だった。大人も全身濡れながらも嬉々として魚類を追いかけた。捕獲した生きものは、水槽に入れて観察をした。この時生態についても説明をした。

当日の参加者からは、「たくさんの生きものを観察することができた」「楽しかった」などの声があった。

<観察した主な生物>木曽川：スッポン、アジメドジョウ、テッポウエビなど。

大池：ヌマチチブ、ホンモロコ、メダカ、カダヤシなど。



自然観察のヒント

虫を推理！食べたのは誰？

名古屋支部 山田 千宏

【見つからない、でも、いる】

植物は、基本、移動しません。昆虫はそうはいきません。下見の時はいたのに・・・、ということもよくあることです。また、成長に従って居場所を変えていくこともあります。イモムシはそんなに移動しない、でもチョウになってしまうと・・・。

しかし、よく見てみましょう。“私は確かにここにいましたよ”というサインが残されていませんか？ 食べ跡、抜け殻、卵塊、巣・・・さあ、探してみましょう。



【食べたのは私です】

写真を見て下さい。ツツジの葉に、長方形の切れ込みがあります。ちょっと特徴的な形になっています。イモムシ、ケムシの食べ方とは少し違います。

さて、犯人を考えてみましょう。同じような食べ跡をどこかで見たことはありませんか？ よく見られるのは、夏です、大きな葉、空き地によく生えているツル植物・・・、そう、クズです。クズの葉には多くの昆虫が暮らしていますが、コフキゾウムシもその仲間です。

葉のへりにとまって、独特の口先一口吻で、どんどん葉の奥に向かって切り込むように食べ進んでいきます。クズの葉に、白っぽい粉を吹いたような小さなゾウムシを見たことがありますか。それがコフキゾウムシです。このツツジの葉は、それよりもっと丸っこい姿をした、親戚のスグリゾウムシの仕業です。

それぞれの虫に、それぞれの食べ方があります。同じ甲虫でも、コガネムシの場合

▲ムシの食べ跡

は乱食いとでもいいましょうか、手当たり次第にバリバリと食べていく感じです。

【食べ跡－食痕を比べる】

同じように手当たり次第食べているようで、コガネムシとイモムシでは、少し食べ方が違います。

コガネムシの仲間では、葉脈の硬い部分は残すことが多いようですが、大型のイモムシではそれも食べてしまいます。ただ、若齢のイモムシ類では葉脈標本のような食べ方をする場合があるので、注意は必要です。

成長に伴う食べ方の差は、身近なところで観察しやすいのは、ヒロヘリアオイラガの場合でしょう。見慣れると、口先の構造だけでなく、食べているときの足場の違いが食痕の差になっているのがわかります。

では、バッタの場合はどうでしょうか。それぞれに特徴的な食べ方があります。一度、食事中を観察してみましょう。

私の活動紹介



尾張支部 出口 慎治

■自然観察指導員になった動機

39年前、7年程4軒の店で修業して、森林公園の近くに店を構えました。その店も5年ほど前に閉店し、毎日のように森林公園に散歩に出かけ、いろいろな観察会に参加してきました。吉田雅記会員や大石眞郷会員の勧めもあり、一昨年講習を受けた若葉マーク付きの指導員です。今は、他の観察会にも参加させていただき、勉強中。

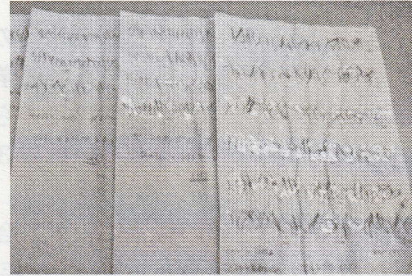
活動の中心は森林公園です。観察会で話すことは、全く下手。職人は黙々と手を動かしての観察や調査は好きですが、人を指導するのは？——指導されたい方です。でも話すことも大切だと思い、月1回森林公園の植物園で行う道草ウォーキングに、ガイドボランティアとして参加し、指導員の修行中です。

■さまざまな調査

ある植物の話をする時、その植物を観察して調べ、育てたことがあると奥の深い話ができると思い、森林公園を中心にいろいろ調べました。そしてどれ一つとして結果や結論が出ていませんが、出そうとも思っていない。

今興味を持ったり、どうしてかなって思ったりしていることをあげると

- ・梅の開花日調べ（森林公園の梅園の 89 本 86 種を4年間）
- ・タヌキマメの開花時間調べ（夜間の光の影響のない様に、今年やり直す）
- ・ヒサカキの雄株（雄花）雌株（雌花） 雌雄同株（両性花）を調べる



▲ 花数調査は、花序を台紙に並べて数えた。

- ・タンポポの花数を調べる（1花序のほうけた時に種子を並べて数えた）→これで何を導き出せるか？
- ・イシモチソウの花の咲く条件（天気が良いのに、一面のイシモチソウの花が咲かないのはなぜか？）

以上、調査をしながら森林公園を散歩して楽しんでいます。

■“向日葵庵”は活動の基地

調べたことを、いつでもどこでもだれでも、の精神で話せる様に、今活動の基地は5年前に店だったところに、テーブルとパンを置いて、書斎兼、応接間兼、食堂兼、会議室、酒盛りもしています。そして名づけて、“向日葵庵”^{ひまわりあん}。ここで毎日、植物の絵を描いて、植物と会話しています。無職になってから、126×90 ミリの画用紙に1日1枚以上書くようにしています。今度皆様とお会いする時には、違ったことを調べているかもしれません。

調べものに対し、皆様のご指導、アドバイスを待っています。

第4回理事会

日 時：11月24日(土)13:00～17:00

場 所：岩倉市生涯学習センター

出席者：大谷、浅井、石原、吉田、森田、布目、永田、石川、瀧崎、齋竹、滝田、三田
あいち新生物多様性戦略についての説明(県自然環境課関さん)。年末までには、配信するのでご意見を伺いたい。

議案1 3月20日(水・祝)協議会総会の講師の件

大阪市立自然史博物館 昆虫担当主任学芸員 金沢 至氏に決定。

記念講演のテーマとしては、①熱帯からの北上の昆虫、②アキアカネなど昆虫の減少の原因、③伊良湖岬から海を渡る昆虫の3点を要望。快く了解していただいた。

議案2 ESDへの対応

持続可能な開発のための教育に関する会議：2014(平成26)年11月4日(火)～7日(金)

協力要請があれば協議会としては、1年前のプレイベントと本番のイベントに協力する。

議案3 自然観察指導員講習会

来年度は一泊二日(通い可)。2日目の地域の自然は講義内容から除かれる。東三河か奥三河地区で実施したい。①案8.31～9.1 ②案8.24～8.25。日程は会長が県と詰める。

議案4 協議会の来年度の自然観察会と研修会

- ・テーマ「子どもたちとともに田んぼ・畑の周りの生き物から学ぶ」
- ・来年度の研修会は各支部で各1回担当
- ・1月末日までに、予定も含めて事務局へご連絡ください。
- ・今年度の県の行事については、会長にまとめていただいた。

議題5 役員の改選

なし

議題6 協議会の日

11月30日(土)西三河支部担当。岡崎市で行い同時に新人歓迎会も行う予定。

議題7 各担当から

- ・各支部より 名古屋自然観察会(10月6日 30周年記念イベント)
知多支部観察会(11月23日 30周年記念事業)
- ・総会日程 尾張支部(1/14)、西三河支部(2/2)、知多支部(2/16)、名古屋支部(2/24)

その他

- ・協議会のパンフレット
各支部の連絡先の電話番号は削る。パンフレットの修正期日は年末までとする。
- ・担当への事務費(業務手当)について
2011年度と2012年度については、若干変更有。可決。
- ・タケの調査の進捗状況
エクセルデータでください。

今後の予定

- ・第5回理事会 2月11日(月・祝)13:30～ 名古屋支部担当
議案 会計決算 来年度の事業計画
- ・県協議会総会 3月20日(水・祝)13:00～ 場所：名古屋国際センタービル3F第2研修室



= 事務局より =

■平成 25 年度総会

3 月 20 日 (水・休)

平成 25 年度通常総会は、例年通り春分の日に開催します。協議会として、前に進んでゆくには何をしたらよいのかを含め、会員のみなさんとともに話しあっていきたいと思います。会場でお会いしましょう。

日時：3 月 20 日 (水・休)

12:30 受付開始

13:00 総会開始

場所：名古屋国際センター

内容：総会

講演 季節的に長距離を移動する
昆虫の生活ーアサギマダラ、ウスバ
キトンボ、アキアカネなどー

講師：金沢 至氏

(大阪博物館学芸員)

茶話会

親睦会(有志にて総会終了後移動)

本誌 p 2 参照

■30 周年記念事業 = 知多支部 =

11/23(金・休)、知多支部 30 周年記念行事が無事終了しました。当日は、当会の「協議会の日」の行事も併せて開催されました。知多支部会員のみなさんによる運営で、観察会実施、工作教室が行われました。

知多支部会員のみなさん、ありがとう & おつかれさまでした。

<参照>

本誌 p 2~6、知多支部 30 周年記念行事報告を掲載しています。当日の様子がレポートされています。

■あいちの自然観察会

テーマ「田んぼ」

平成 26 年度の ESD 会議を見据えて、「田んぼ」をテーマで行う予定です。

4 月の西尾いきものふれあいの里(西三河)での観察会をスタートとし、11 月まで開催します。子どもたちとともに観察会を通して、田んぼの生態系について一緒に考える機会が持てれば、意義あるものになると思います。

■平成 25 年

自然観察指導員講習会開催予定

9/7・8 (土・日)予定で、自然観察指導員の講習会が開催されます。

新しい仲間たちを拡大する機会です。観察会参加者に、自然観察指導員として活動可能で適切な方がみえましたら、是非一声かけてください。

本年度より 1 泊 2 日の講習会となり、これまで野外実習として実施されていた「地域の自然」が講義内容から除かれます。各支部のみなさんの協力が、ますます欠かせないものとなります。よろしくお願いいたします。

■11/30(土) 新指導員歓迎会

西三河支部会員のみなさんが中心になり、11/30(土)に新指導員歓迎会を開催します。西三河支部会員のみなさんから、楽しい企画が届くことを心待ちにしていますので、よろしくお願いいたします。

※詳細は、「協議会ニュース」No.139 5/1 発行に掲載します。

(事務局 浅井 聡司)

<< 行 事 案 内 >>



■平成 25 年度 あいちの自然観察会(平成 25 年 2 月 11 日現在の 7 月までの情報)

日 時	内 容	実 施 場 所	集 合 場 所	担 当
4/27(土) 9～12	田んぼの 生きもの	西尾いきもの ふれあいの里	ネイチャー センター前	西三河支部 松山
5/25(土) 10～14	棚田にすむ いきものたち	四谷千枚田	四谷千枚田 駐車場	奥三河支部
6/15(土) 9～12	田んぼのまわりの 生きものたち	瀬戸市立掛川小学校	定光寺公園 第3駐車場	尾張支部
6/23(日) 9:30 ～11:30	水田と畑の良い虫 悪い虫の観察	常滑市大谷	南陵公民館 駐車場	知多支部 降幡 竹内匡
7/14(日) 10～15	田んぼに生える 野草観察	守山区才井戸流れ &周辺の田畑 (野田農場周辺)	ゆとり～と ライン大曽根駅 9:10	名古屋支部 萩原

■平成 25 年度 支部研修会 (平成 25 年 2 月 11 日現在の 7 月実施までの情報)

日 時	内 容	実 施 場 所	集 合 場 所	担 当
5/6 (月・休) 10～14	ハマヒルガオなど 海浜植物観察	常滑市鬼崎海岸	名鉄蒲池駅 9:30	名古屋支部 萩原
5/25(土) ～26(日)	(候補) 戸隠の自然観察	長野県戸隠	大池公園 (東海市) 7:00	知多支部 竹内秀 牧野
7/20(土) ～21(日)	海の生きもの観察 エサキムカシハナバチ観察	西尾市佐久島	一色港 9:20	西三河支部 三田

編 集 部 か ら

■「自然観察のヒント」は、本年より山田 千宏会員(名古屋支部)の執筆。問いかけ文で、昆虫に関心が低い人にも読みやすいコラムとなっています。

編 集 ス タ ッ プ

岡田 雅子 久米未祐
近藤 記巳子 新山 雅一
山口 健

発 送 ス タ ッ プ

名古屋支部有志

「協議会ニュース」編集部

〒457-0006 名古屋市南区鳥栖 2 - 6 - 17
桜本町 C H 101

近藤 記巳子

TEL / FAX 052-822-7460

E-mail : konkimi@nifty.com

■愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局

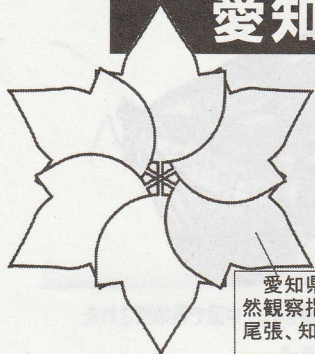
〒464-0096 名古屋市千種区下方町 7 - 3 石原 則義

TEL / FAX 052-711-3087 E-mail : noriyoshibob@yahoo.co.jp

■ Web Page : <http://naichi.net/>

愛知県自然観察指導員連絡協議会

総会・記念講演



愛知県の木であるハナノキの葉をかたどってデザインされた、愛知県自然観察指導員連絡協議会のマークです。6枚の葉が重なる形は、名古屋、尾張、知多、西三河、東三河、奥三河の6つの支部を表しています

①総会

受付/12:30～

13:00～14:30

名古屋国際センター 3F 第二研修室 名古屋市中村区那古野町 1-47-11 Tel (052) 581・5679

※地下鉄桜通線「国際センター駅」下車すぐ JR・名鉄名古屋駅から徒歩 7 分

平成25年度の通常総会です。1年間の活動を振り返ります。皆さん一人ひとりの協議会です。

皆さん方の意見が新たな年度の事業に反映されます。是非ご参加ください。

②記念講演

受付/14:40～

14:50～16:20

名古屋国際センター 3F 第二研修室

講師／金沢 至氏(大阪市立自然史博物館 昆虫担当主任学芸員)

演者の紹介

1957 年新潟県生まれ。九州大学大学院農学研究科博士課程単位取得退学。1984 年から大阪市立自然史博物館で勤務し、現在は昆虫担当主任学芸員・大阪市立大学理学部・文学部非常勤講師。ボルネオ、中国、台湾、韓国などで調査も経験し、アサギマダラを調べる会、昆虫担当学芸員協議会などの事務局をつとめる。アメリカ鱗翅学会、国際トンボ学会、日本昆虫学会、日本鱗翅学会、日本応用動物昆虫学会などに所属。主な編著書は、『スズメバチとアシナガバチ』(1990 年、大阪市立自然史博物館、共著)、『小蛾類の生物学』(1998 年、文教出版、共著)、『旅をする蝶 アサギマダラ』(2003、むし社、共編著)、『毒グモ騒動の真実』(2012 年、全農教、共著)など。



2013(平成 25)年

3/20

(水・祝)

①通常総会

13:00～

②記念講演会

14:50～

③懇親会

17:30～

主催／愛知県自然観察指導員連絡協議会

連絡先／事務局 石原則義

Tel・Fax(052)711・3087

E-mail noriyoshibob@yahoo.co.jp



演題／ 季節的に長距離を移動する昆虫の生活
ーアサギマダラ、ウスバキトンボ、アキアカネなどー

ハネをもつ有翅昆虫は、鳥などと同様に移動能力の高いものが多い。しかし、それらの移動の実態は、イネの害虫であるウンカ類や、迷蝶類の北上分散を除き、あまりわかっていない。季節的に長距離を移動する蝶として、主に北米に分布するオオカバマダラが有名だが、それだけではない。日本周辺に生息するアサギマダラも、2000 キロ以上の旅をすることが、この 30 年あまりのマーキング調査で徐々に明らかになってきた。この講演では、アサギマダラの移動の謎に挑む多くの愛好家たちの努力を紹介しながら、その渡りについて解説することから始める。



石川県で標識され、中国で再捕獲された
アサギマダラ♂

次にアサギマダラのような季節的な長距離移動が、他の昆虫で見られない、まれな現象であるという先入観が、いかに昆虫の移動に関する調査を遅らせてきたかについて述べる。その実例として、ウスバキトンボをあげる。演者は多団体の協力の下に 2009～2012 年の秋の伊良湖岬、神島において共同調査を行った。その結果から多くの昆虫が再帰的な南下移動を行っていると確信している。ギンヤンマなどもそういったトンボである。

最後に、同じく季節的な移動をする昆虫であるアキアカネなどの「赤とんぼ」が、激減しているというテーマを扱う。アキアカネの盛衰は、古代に「あきつしま」(トンボの国)と呼ばれた日本列島に住む私たち(の祖先)のくらし(農業形態)と密接に関連している。稲作とともに数を増やしたアキアカネは、今絶滅の危機に瀕している。その生活と衰退について解説する。

③懇親会 **受付/17:15～** **17:30～19:30**
炭あぶりBUKAN-DO本店 中村区名駅 3-21-4 名銀駅前ビル B 1 F Tel (052) 588・7778
 金沢至先生を囲んで懇親会を行います。奮ってご参加ください。

申込用紙

締め切り **3/17 (日) 必着**

出席を希望される方は()の中に○印をお書きください。	
① 通常総会	()
② 記念講演	()
③ 懇親会	()
[飲食代・2,980円 飲み放題]	
ご氏名	
ご連絡先	Tel() —
ご住所	〒

会場の準備の都合上申し訳ありません。ご協力を宜しくお願いします。

各支部連絡先までお送りください。

名古屋支部／滝田久憲 Tel・(052) 782・2663 takilin@sf.starcatt.ne.jp
 Fax・(052) 781・8127
 尾張支部／齋竹善行 Tel・Fax (0587) 37・7616 yoshiyuki.saitake@nifty.ne.jp
 知多支部／降幡光宏 Tel・Fax (0569) 43・8060 furimitu@zm.commufa.jp
 西三河支部／三田 孝 Tel・Fax (0566) 75・4059 mita.takashi@nifty.com
 東三河支部／星野芳彦 Tel (0562) 93・4927 yhikoh@gmail.com
 奥三河支部／小山舜二 Tel・Fax (0536) 35・0747 s-koyama@tees.jp